第53回　愛媛県教育研究大会(発表大会)

学習指導案集

研究主題

私の問いを仲間と深め合う自立する学び手の育成

～問いと対話と省察でつくる探究する学びのサイクルを通して～









令和8年11月5日(木)

東温市立川内中学校

【川内中学校】

○ 受　　付　　8:50 ～ 9:20
○ 授業説明　　9:20 ～ 9:30
○ 公開授業　　9:45 ～ 10:35

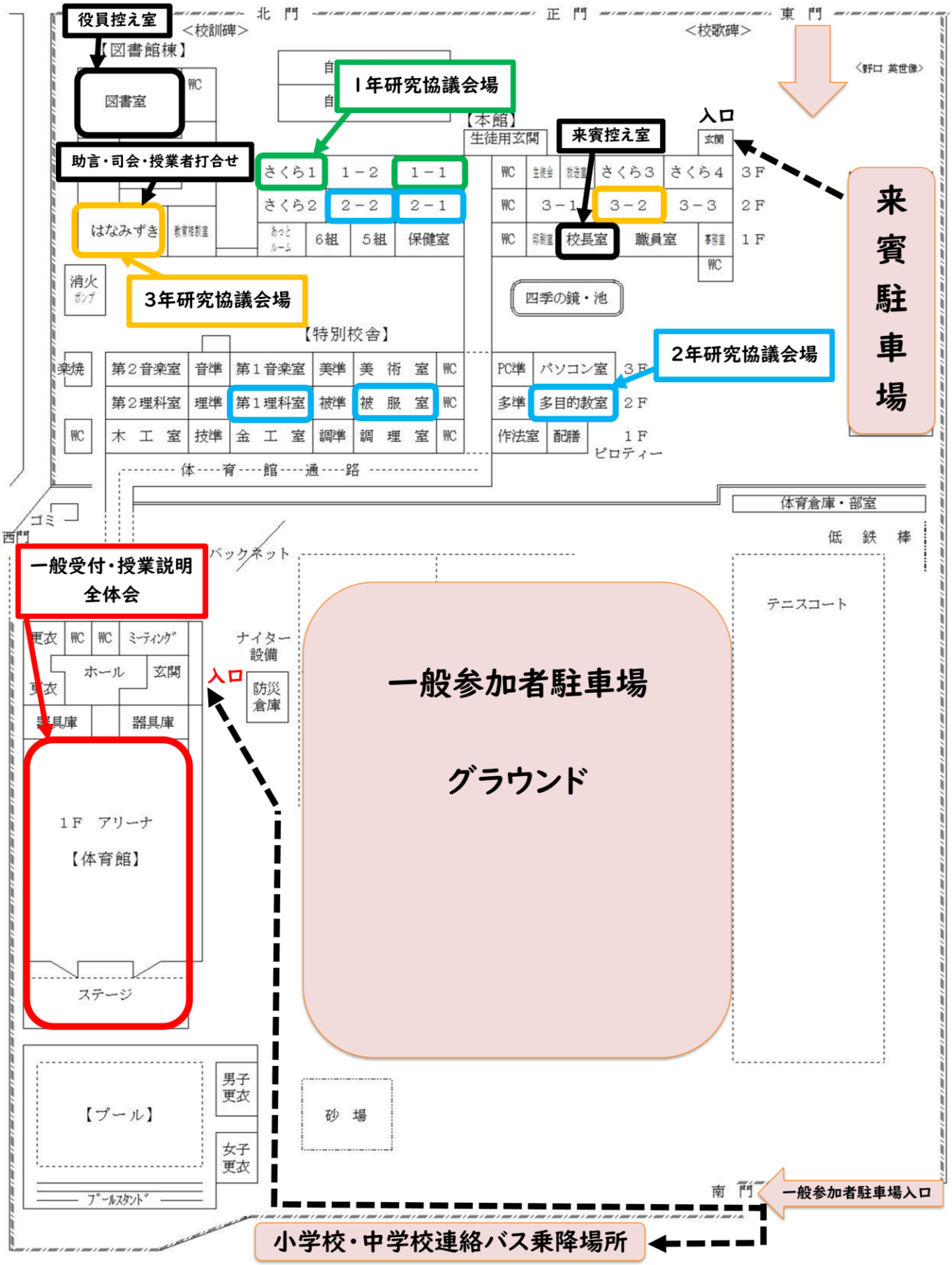
学年・学級	教科等名	単元名	授業者	授業場所	研究協議場所
1年1組	社 会	アフリカ州 －未来につながる発展を考える－	笠原 未菜	1年1組	さくら1
2 年	総合的な 学習の時間	私たちはどう働くか －働く人と出会い、自分の未来に つなぐジョブチャレー	中島 義人 渡部 真平 新井 宇丞 水田 奈美	被服室 2年2組 2年1組 第1理科室	多目的 教室
3年2組	道 徳	加山さんの願い	廣田 明日香	3年2組	はなみずき

○ 研究協議　　10:50 ～ 12:00
○ 昼食・移動　　12:00 ～ 13:00

全体会【川内中学校 体育館】

○ 開会式　　13:00 ～ 13:20
○ 研究発表・ﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝ・総括　13:30 ～ 15:55
○ 閉会式　　15:55 ～ 16:00

川内中学校　会場配置図


役員控え室
北　門
正　門
東　門
<校訓碑>
<校歌碑>
【図書館棟】
図書室
WC
1年研究協議会場
【本館】
生徒用玄関
来賓控え室
入口
助言・司会・授業者打合せ
さくら1
1－2
1－1
さくら2
2－2
2－1
6組
5組
保健室
WC
3－1
3－2
3－3
さくら3
さくら4
3F
2F
1F
校長室
職員室
はなみずき
消火ポンプ
3年研究協議会場
四季の鏡・池
来賓駐車場
【特別校舎】
2年研究協議会場
第２音楽室
音準
第１音楽室
美準
美　術　室
PC準
パソコン室
第２理科室
理準
第１理科室
被準
被　服　室
多準
多目的教室
木　工　室
技準
金　工　室
調準
調　理　室
作法室
配膳
ピロティー
体----育----館----通----路
体育倉庫・部室
ゴミ
西門
低　鉄　棒
バックネット
一般受付・授業説明
全体会
テニスコート
更衣
ホール
玄関
ナイター設備
防災倉庫
器具庫
一般参加者駐車場
グラウンド
1F　アリーナ
【体育館】
ステージ
【プール】
男子更衣
女子更衣
砂　場
南　門
一般参加者駐車場入口
小学校・中学校連絡バス乗降場所

研究の概要

東温市立川内中学校

Ⅰ　研究主題

私の問いを仲間と深め合う自立する学び手の育成
～問いと対話と省察でつくる探究する学びのサイクルを通して～

２　学校紹介と主題設定の背景

本校は、東温市東部の自然豊かな地域に位置し、「大同団結　共励切磋」の校訓のもと、「『気づき、考え、行動する』生徒の育成」を教育目標に掲げている。学校・家庭・地域が連携して地域に根ざした教育活動を展開し、生徒と共に学び合う学校づくりに取り組んでいる。

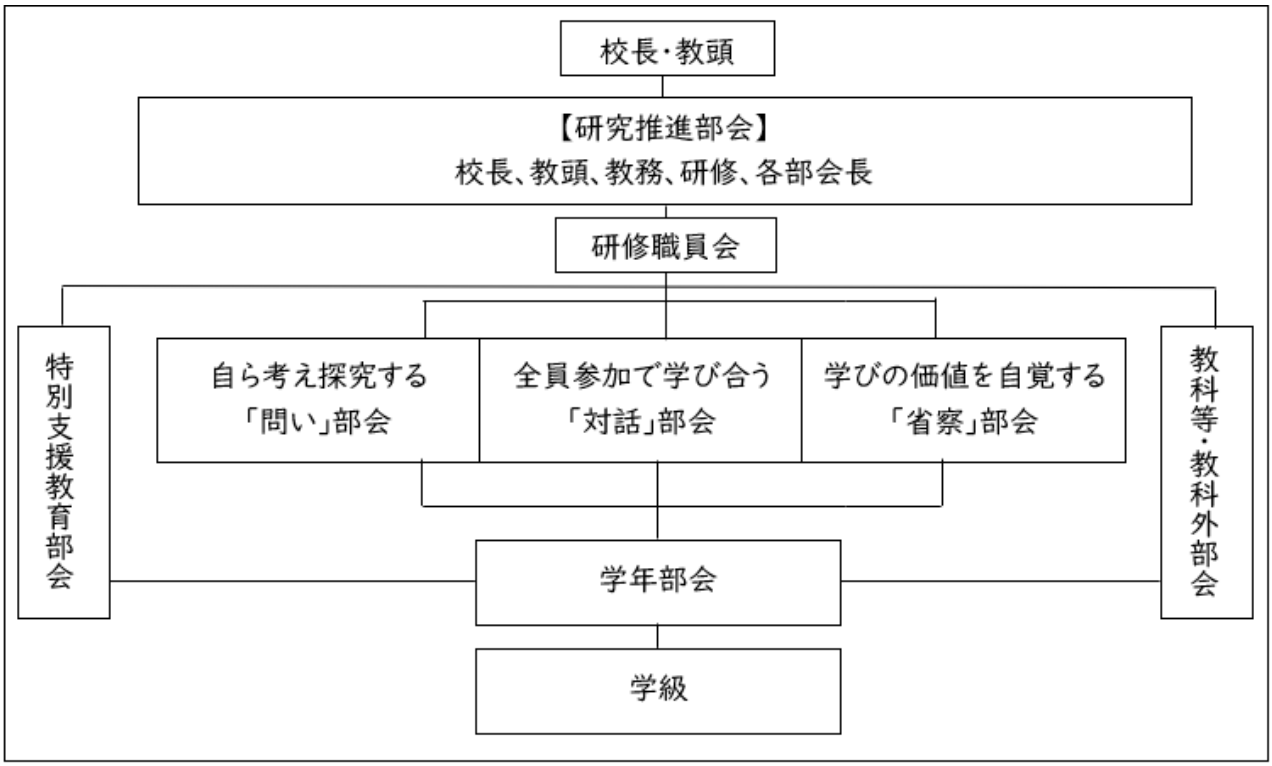
生徒は、明るく活動的で、学校行事や生徒会活動に意欲的に取り組み、授業にも真摯な態度で臨んでいる。一方で、自ら疑問や課題を見いだし、仲間との対話を通して考えを深め、次の学習や行動につなげる力には課題がある。変化の激しい社会においては、自ら課題を捉え、多様な他者と協働しながら考え、学び方や行動を調整する力が求められる。これは、本校が目指す「気づき、考え、行動する」生徒の姿と重なる。そのため、学習内容を自分自身の問いとして捉え、仲間と共に追究しながら主体的に学び続ける力の育成が重要であると考えた。

昨年度は、「自らの学習を調整して学び続ける生徒の育成～省察を生かした主体的な学びのサイクルの創造～」を研究主題とし、「見通し−行動−振り返り」のサイクルを授業や学校行事等に位置付けた。一枚式自己評価シートなどを活用した実践を通して、生徒が学習内容だけでなく、「どのように学んだか」という学習過程にも目を向け、考えや学び方、活動を見直そうとする姿が見られるようになった。一方で、振り返りが学習内容や達成状況の確認にとどまり、学び方の調整や次の行動につながらない場面もあった。また、生徒自身の問いを引き出し、対話を互いの考えを広げ深める学びへと高めることにも課題が残った。同時に、振り返りを仲間と共有し、異なる気付きや考え方に触れることが、省察を深める手掛かりとなることも見えてきた。

そこで今年度は、昨年度の成果を土台として、「問い」「対話」「省察」を一体的に捉えた研究へと発展させることにした。生徒が自ら問いを持ち、仲間との対話を通して問いや考えを深め、省察によって理解や学び方、行動を見つめ直し、新たな問いや次の学びへとつなげていく。この三つを往還する過程を「探究する学びのサイクル」と捉えた。また、安心して問いを発し、異なる考えを伝え合うためには、互いを認め合う集団が不可欠である。そこで、「自他のよさを認め合い、高め合う自走する集団づくり」を研究の基盤に据え、学級活動や学校行事でも「問い」「対話」「省察」を生かし、仲間と共に課題を捉え、自ら考え、判断し、行動する集団を目指すことにした。

この集団づくりを基盤に、各教科や総合的な学習の時間、地域と連携した活動を通して探究する学びのサイクルを重ね、仲間と学びを深め合いながら主体的に学び続ける「自立する学び手」を育成したいと考えた。教師自身も、生徒の学びの姿を手掛かりに授業や支援を省察し、生徒と共に学び続ける学校を目指して、本研究主題を設定した。

3　研究推進体制



4　研究の仮説

(1)　「問い」を起点とした学習をデザインすることで、生徒一人一人が学びを自分事として自覚し、主体的に学び、思考を深める力や態度が育つだろう。

(2)　「対話」を日常化し、仲間と問いを重ねながら学び合う活動を充実させることで、互いを認め合い高め合う関係性が育まれ、協働的に学ぶ力や学ぶ楽しさが高まるだろう。

(3)　「省察」によって自己の学びや行動を繰り返し見つめることで、学び方を調整する力が育まれるとともに、自己のよりよい生き方を求める意欲と志が育つだろう。

5　研究の内容　　※括弧内は参考にした「授業改善の視点・具体的な方策カード」との対応を示す。

(1)　自他のよさを認め合い、高め合う自走する集団づくり

ア　学級活動や学校行事における「問い」「対話」「省察」を生かした仲間づくり

イ　安心して自己を表出し、挑戦する仲間を励まし合う集団づくり

(2)　探究する学びのサイクルによる授業改善と自立する学び手の育成

ア　問いで子どもが変わる　（K、L←Bイ・ウ）

○　自ら問いを持ち、自他に問いかけ合いながら思考を深める学習過程の構築

イ　対話で子どもが変わる　（M、N←Dカ、Gア・ウ・エ、Iエ）

○　違いに学び、仲間と学ぶことを楽しみながら考えを広げ深める対話の充実

ウ　省察で子どもが変わる　（N、O←Eエ・オ、Fエ）

○　学びの変容を自覚し、学び方を調整して新たな学びに向かう省察の充実

エ　学びのサイクルと地域丸ごとの学びの場で子どもが変わる（O←Fア・ウ、Jウ）

○　「問い」「対話」「省察」を往還する学びと、地域と連携した学びの場の充実

6　公開授業について

(1)　１年生：社会科「アフリカ州－未来につながる発展を考える－」

ア　驚きや疑問を「私の問い」につなげる学習過程の工夫【問い】

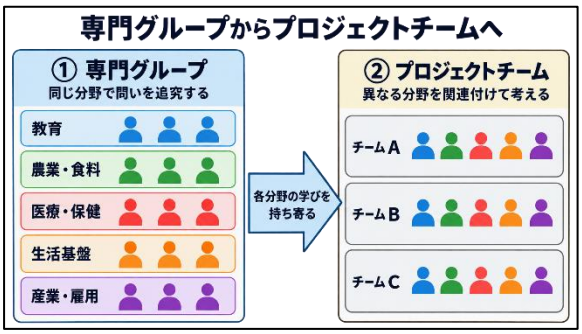
資料やゲストティーチャーの講話を通して、アフリカ州に対する既有のイメージと実際の姿を比較し、生まれた驚きや疑問から「もっと知りたい、考えたいこと」を問いとして設定する。「私の問い」を起点に、地域的特色や課題について主体的に追求する姿を目指す。



（JICA 四国の講師、アフリカ出身の留学生からの講話）

イ　異なる分野の学びを関連付け、考えを深める対話の工夫【対話】

専門グループで追求した内容を、異なる分野で構成するプロジェクトチームに持ち寄る。本時では、現地の人々の願いや必要性、効果、実現可能性、継続性、他分野への広がりの五つの視点とダイヤモンドランキングを用いて、優先する取組を検討する。順位だけでなく、その理由を問い合い、資料を根拠に取組を比較・関連付けながら、考えを深める過程を重視する。



ウ　見方や考え方の変容を捉え、次の問いにつなげる省察の工夫【省察】

一枚式振り返りシート「社会科学びのあしあと」に、新たに分かったこと、生まれた問い、考えの変化を継続的に記録する。追求や対話を通して、自分の見方や考え方がどのように広がり、深まったかを自覚し、次の問いや追求につなげる姿を目指す。

(2)　２年生：総合的な学習の時間「私たちはどう働くか
－働く人と出会い、自分の未来につなぐジョブチャレ－」

ア　単元を貫く問いを「私の問い」につなぎ、自分事として追究する工夫【問い】

単元を貫く問い「私たちはどう働くか」を考えるために、働くことへの疑問や関心を基に、一人一人が「私の問い」を設定する。「私の問い」を軸に体験や対話を重ね、そこで得た考えを単元を貫く問いに結び付けることで、自分は何を大切にし、どのように働いていきたいかを考える学習過程を構成する。

イ　地域と共につくる学びの場と、考えを深める対話の工夫【対話・地域との連携】

単元の企画段階から地域の方と連携し、「働く人と出会う会」、職場体験、体験後の「アフタートーク」、発表・対話の場へと、継続的な関わりを位置付けている。働く人の経験や思いに繰り返し触れ、自分の体験や仲間の考えと比較・関連付けることで、「私の問い」に対する考えを深められるようにする。本時では、異なる問いをもつ仲間との対話で得た気

付きを持ち帰り、問いの近い仲間や地域の方と、体験を根拠に考えを伝え合い、問い返し合うことで、自分の考えをさらに深めたり見直したりする。


（働く人と出会う会）


（ジョブチャレ後のアフタートーク）

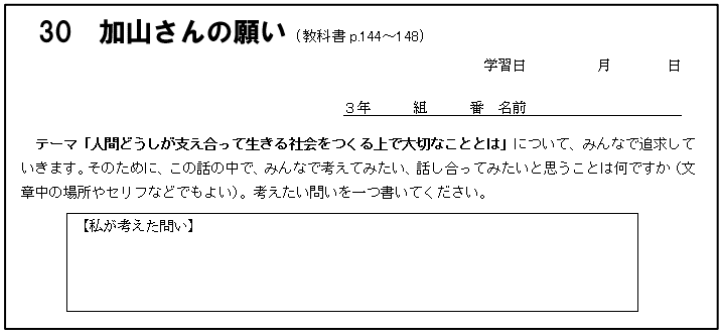
ウ　各小単元の学びを見つめ直し、次の学習や生き方につなげる省察の工夫【省察】

各小単元に振り返りの場を位置付け、働く人との出会いや職場体験、仲間との対話を通して、「私の問い」や考えがどのように変化し、深まったかを確かめ、次の学習につなげる。本時では、一枚式デジタルポートフォリオを基に対話で得た気付きを捉え、発表スライドの修正や再発表に生かす。単元の終末には、学習当初と現在の考えを比較し、単元を貫く問いに立ち返って、今後の生活や学習、自己の生き方につなげる。

(3)　３年生：道徳科「加山さんの願い」

ア　「私の問い」を起点に、生徒自身が対話する問いを決める授業モデル【問い】

事前に教材を読み、授業のテーマに関して皆と話し合いたい「私の問い」を一人一人が考え、小集団で対話した後、全体で話し合う問いを生徒自身が選ぶ授業モデルに継続して取り組んでいる。問いを立てるだけでなく、共に考える問いを決める過程も生徒に委ねることで、自らの問題意識を基に道徳的な課題を自分事として考えられるようにする。本時も「人間どうしが支え合って生きる社会をつくる上で大切なこととは」というテーマのもと、生徒が立てた問いから対話を展開する。



30　加山さんの願い（教科書 p.144～148）

学習日　　月　　日

3年　　組　　番　名前

テーマ**「人間どうしが支え合って生きる社会をつくる上で大切なこととは」**について、みんなで追求していきます。そのために、この話の中で、みんなで考えてみたい、話し合ってみたいと思うことは何ですか（文章中の場所やセリフなどでもよい）。考えたい問いを一つ書いてください。

【私が考えた問い】

（「私の問い」を考える道徳科ワークシート）

イ　問いに問いを重ね、多面的・多角的に考える対話の工夫【対話】

仲間の意見に対して「それはどういうことか」「自分だったらどうか」と問いを抱き、互いに問い返しながら考えを深める。主人公と援助を受ける側の双方の思いに目を向け、答えが一つではない道徳的な課題について、異なる立場や見方から考える対話を重視する。

ウ　考えの変化を見つめ、自己の生き方につなげる省察の工夫【省察】

一枚式振り返りシートに授業前の感想や「私の問い」と授業後の感想を記録し、対話を通して自分の考えがどのように変化し、深まったかを捉える。蓄積した記録も見直しながら、道徳的な課題について考え続け、日常生活や自己の生き方との関わりを見つめられるようにする。

第１学年１組　社会科学習指導案

指導者　笠原　未菜

１　日　　時　令和８年11月５日（木）　第２校時　９：45～10：35

２　場　　所　１年１組教室

３　単 元 名　第２章　世界の諸地域「アフリカ州」― 未来につながる発展を考える ―

４　単元の目標

○　アフリカ州に暮らす人々の生活に着目し、自然環境、歴史、文化、産業などを関連付けながら、アフリカ州の地域的特色を大観するとともに、様々な課題があることを理解する。　【知識及び技能】

○　アフリカ州で見られる地球的課題の要因や影響を、州という地域の広がりや地域内の結び付き、日本との関係などに着目して、地域的特色と関連付けながら多面的・多角的に考察し、表現する。

【思考力、判断力、表現力等】

○　よりよい社会の実現を視野に、アフリカ州で見られる課題を主体的に追求しようとする。

【学びに向かう力、人間性等】

５　指導に当たって

⑴　生徒について

本学級の生徒は明るく素直で、学習課題に前向きに取り組んでいる。ほとんどの生徒が小学校から同じ集団で学んでおり、話合い活動に抵抗がなく、互いに自分の考えを意欲的に伝え合うことができる。４月当初から、相手の話を受容的に聞く姿勢や、オープンクエスチョンを用いて互いの考えを引き出すことを意識させるなど、対話を通して考えを深めるための取組を進めてきた。一方で、グループの考えをまとめる場面では、一部の生徒の意見に頼ったり、修正や検討をしないまま出された意見の一つを選んだりする傾向が見られる。そのため、一人一人の意見を持ち寄り、それぞれの根拠や考えを関連付けながら、協働して新たな考えをつくり出す力は、まだ十分に身に付いていないと言える。そこで本単元では、一人一人が自分の役割に責任を持ち、得た知識や考えを根拠とともに伝え合うことを通して、多様な意見を関連付けながら、協働して新たな考えを形成し、課題を追求する力を高めていきたいと考えている。

生徒は、アフリカ州について「暑い」「貧しい」「かつて植民地支配されていた」など、限られたイメージで捉えていることが予想される。そこで地図や統計などの資料による学習だけでなく、JICA 海外協力隊員として現地で活動した方や、アフリカから日本に留学している方をゲストティーチャーとして招く機会を設ける。現地での生活や人々の思い、地域が抱える課題、発展に向けた取組を直接聞くことで、教科書だけでは捉えにくいアフリカ州の多様な姿に気付き、既有のイメージを問い直しながら、自分の見方や考え方を広げられるようにしたい。

⑵　単元について

本単元では、アフリカ州に暮らす人々の生活を基に、自然環境、歴史、文化、産業などを関連付けながら、地域的特色を捉えるとともに、様々な課題があることを理解することをねらいとしている。また、アフリカ州で見られる地球的課題について、その要因や影響を地域内の結び付きや日本との関係などに着目して、地域的特色と関連付け、多面的・多角的に考察することを目指す。

アフリカ州には、豊富な資源や人口増加を背景に、急速な経済成長を遂げている国や地域がある。一方、特定の農産物や鉱産資源の輸出に依存し、世界市場の価格変動の影響を受けやすい国も多い。また、経済成長の恩恵には地域差があり、農村部を中心に、貧困や食料不足、水、医療、教育、電気などの課題が見られる。こうした成長と課題の背景を、歴史や地域内外の結び付き、国や地域による違いと関連付けて捉えることは、アフリカ州の多様な姿を理解する上で重要である。

単元を貫く学習課題を「アフリカ州は、どのような地域なのだろうか。」と設定する。「教育」「農業・

食料」「医療」「生活基盤」「産業・雇用」などの分野から課題を追求し、それぞれの分野で明らかにしたアフリカの実態が、人々の生活や地域の発展に与える影響について考えていく。その際、国際支援については、外部から一方的に支援するのではなく、現地の人々の思いや願いを大切にし、現地の人々と共に、地域の実情に合った持続可能な取組を進めることの重要性について、多面的・多角的に考察できるようにしたい。

これらの学習を通して、生徒が「私の問い」を起点に課題を追求し、対話を通して多様な意見を関連付けながら考えを深め、自分の学びを振り返って次の学習につなげるという、探究的な学びのサイクルの実現を目指す。

⑶　指導について

生徒がアフリカ州の地域的特色や課題について「私の問い」を持ち、その問いを基に資料による追求や他者との対話を重ねることで、見方や考え方を広げたり深めたりしながら、その背景や要因、相互の関連について多面的・多角的に考察できるようにする。そして、学びを通して得た知見を基に、アフリカ州の課題解決や未来につながる発展について主体的に考えられるよう、次の三つの手立てを講じる。

一つ目は、「問いを立てる」場の設定である。単元の導入では、アフリカ州に対するイメージを伝え合い、資料による学習やゲストティーチャーの講話を通して、自然環境や歴史、産業、人々の生活などの地域的特色への理解を広げる。その中で生まれた驚きや疑問から「もっと知りたい、考えたいこと」を「私の問い」として言葉にさせる。さらに、それぞれの問いを共有・整理し、共通点や関連性を見いだすことで、アフリカ州の地域的特色や課題の背景、要因に迫る学習課題へとつなげる。このように、生徒自身の疑問を出発点として追求することで、課題を自分事として捉え、主体的に学習を進められるようにする。

二つ目は、「対話の充実」である。本単元では、エキスパート活動とジグソー活動を取り入れる。エキスパート活動では、同じ分野を担当する生徒で専門グループを構成し、資料から課題の現状や背景を読み取り、地域的特色と関連付けながら、課題の解決に必要な取組やその効果について考える。次に、ジグソー活動では、異なる分野を担当する生徒でプロジェクトチームを構成し、得た知識や考えを伝え合い、他分野の課題や取組について理解を広げる。本時では、様々な課題解決のための取組について、「現地の人々の願いや必要性」「効果」「実現可能性」「継続性」「他分野への広がり」の五つの視点から比較・関連付け、未来につながる発展への第一歩として何を優先するか、根拠を持って話し合う。このような対話を通して、他者の問いや考えを取り入れながら自分の見方や考え方を広げたり深めたりし、アフリカ州の課題を多面的・多角的に捉えられるようにしたい。

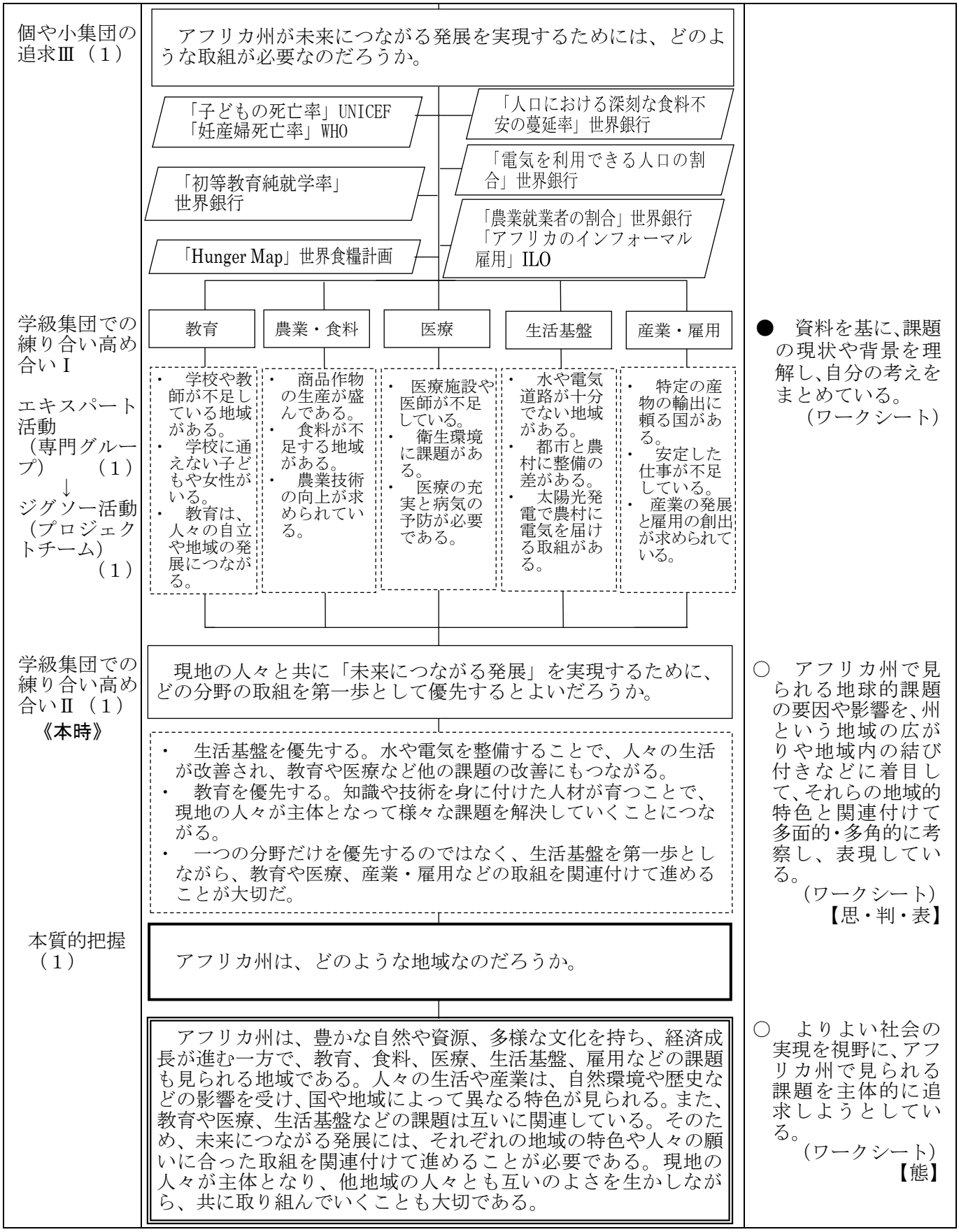
三つ目は、「省察の充実」である。各時間の終末には、一枚式振り返りシートを活用し、「新たに分かったこと」「生まれた問い」「考えの変化」などを継続的に記録する。追求や対話を通して、自分の問いを基に、見方や考え方がどのように広がったり深まったりしたのかを振り返ることで、自らの学びの深まりを自覚し、次の問いや追求へとつなげられるようにする。こうした「問い・対話・省察」のサイクルを通して、よりよい社会の実現を視野に、アフリカ州の課題解決や未来につながる発展について、根拠を持って主体的に考えることができる思考力や態度を育てたい。

６　単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・　アフリカ州に暮らす人々の生活を基に、自然環境、歴史、文化、産業などを関連付けながら、アフリカ州の地域的特色を大観するとともに、様々な課題があることを理解している。	・　アフリカ州で見られる地球的課題の要因や影響を、州という地域の広がりや地域内の結び付き、日本との関係などに着目して、地域的特色と関連付けながら多面的・多角的に考察し、表現している。	・　よりよい社会の実現を視野に、アフリカ州で見られる課題を主体的に追求しようとしている。

7　指導と評価の計画（全９時間）　（○･･･「評価に用いる評価」　●･･･「学習改善につなげる評価」）

過程	具体的な学習の流れと内容	評価規準（方法）【観点】
	学習課題／教師の問いかけ 追求内容／予想される 生徒の反応／まとめ 本質的把握／資料 教師の働き掛け	
社会的事象との出会い（0.5）	アフリカ州と聞いて、どのようなことを思い浮かべるか。 ・ 暑くて乾燥している。砂漠が広がっている。 ・ 貧しい、学校に通えない子どもがいる。 ・ 十分な医療が受けられない。 ・ かつて、ヨーロッパ諸国によって植民地支配されていた。 生活基盤に関する課題が分かる写真 ― 都市化や産業の発展が分かる写真 「１人あたり GNI」世界銀行 ― 日本との関わりが分かる資料 「人間開発指数」UNDP ― 「世界の GNI 成長率ランキング」世界銀行	
学習課題の設定と予想（0.5）	【単元を貫く学習課題】 アフリカ州は、どのような地域なのだろうか。 ・ 水や電気などの生活基盤が十分に整っていない地域がある。 ・ １人あたり GNI や人間開発指数が低い国が多い。 ・ 都市化や工業化が進み、経済が大きく成長している国もある。 ・ 経済が成長している一方で、貧困や生活上の課題がある。	●　既存の知識や資料から、単元を貫く課題について、学習前の考えや確かめたいことを表している。（ワークシート）
個や小集団の追求Ⅰ（２）	アフリカ州には、どのような特徴があるのだろうか。 自然環境 ・ 赤道を中心に気候や植生がほぼ南北対称に分布している。 ・ サハラ砂漠、サバナ、熱帯林など、多様な自然環境が見られる。 ・ 干ばつや砂漠化などの影響で食料不足が発生している。 歴史的背景 ・ ヨーロッパ人がアフリカ人を奴隷として南北アメリカ大陸に連れて行った。 ・ ヨーロッパ諸国による植民地支配を受けた。 ・ 民族の分布を十分に考慮せず国境が引かれた。 産業 ・ 特定の農産物や鉱産資源の輸出に頼るモノカルチャー経済の国が多い。 ・ 都市化や工業化、情報通信産業が進んでいる。 ・ 経済成長の恩恵が、全ての地域に届いているわけではない。 生活・文化 ・ 人口増加や都市化が急速に進んでいる。 ・ 教育、医療、安全な水、電気などの生活基盤に課題を抱える地域がある。 ・ スマートフォンや再生可能エネルギーなどを活用した取組が進んでいる。	○　アフリカ州に暮らす人々の生活を基に、自然環境、歴史、文化、産業などを関連付けながら、アフリカ州の地域的特色を大観し、理解している。（ワークシート）【知・技】
個や小集団の追求Ⅱ（１）	アフリカ州は、赤道を中心に多様な自然環境が広がり、民族や言語、宗教など、地域で異なる生活や文化が見られる。また、植民地支配の影響が現在も残り、豊富な資源を生かして経済成長が進む一方で、特定の農産物や鉱産資源の輸出に依存する国も多い。 ゲストティーチャー大石さん（JICA 四国愛媛県国際協力推進員） エジデさん(ブルンジ共和国出身・JICA 長期研修員) バリーさん(ギニア共和国出身・JICA 長期研修員)の講話 講話を聞いて、アフリカ州の人々の生活や発展について、これからもっと知りたい、考えたいと思ったことは何だろうか。 ・ 安全な水や電気などの生活基盤を整えるには、何が必要なのだろうか。 ・ 教育を受けた人が増えると、国や人々の生活はどのように変わるのだろうか。 ・ 現地の人々が本当に必要としている協力とは、どのようなものだろうか。	●　講話や学習内容を基に、今後追求したい自分の問いを見いだしている。（ワークシート）



＜パフォーマンス課題＞

「JICA 海外協力隊プロジェクト―未来につながる発展への第一歩を提案しよう―」

私たちは、アフリカ州のある地域で活動する JICA 海外協力隊のプロジェクトチームです。現地の人々と共に「未来につながる発展」を実現するために、どの分野の取組を第一歩として優先するとよいだろうか。各分野の課題や取組のつながりを踏まえて話し合い、第一歩として優先する取組とその理由を提案しよう。

8　本時の指導（８／９時間）

⑴　主題　「JICA海外協力隊プロジェクト　―未来につながる発展への第一歩を提案しよう―　」

⑵　目標　アフリカ州が未来につながる発展を実現するために、各分野の取組を比較し、課題や取組のつながりを捉えながら、現地の人々の願いやその取組の効果を踏まえ、何を優先するかを多面的・多角的に考察し、表現する。

⑶　展開

学習活動（形態）	時間	○主な発問　・予想される生徒の反応	○指導上の留意点 ◇評価（評価方法）
1　前時までの学びを振り返る。（一斉）	3	○　これまでの学習で、アフリカ州にはどのような課題が見られたか。 ・　学校に通えない子どもがいることや、食料不足、医療を十分に受けられないこと、水や電気の確保、雇用などの課題が見られる。	○　一枚式振り返りシートを活用して学びを振り返り、本時の学習につなげる。
2　学習課題を確認する。（一斉）	1	現地の人々と共に「未来につながる発展」を実現するために、どの分野の取組を第一歩として提案するとよいだろうか。	
3　学習課題について考える。			
①　自分の考えを持ち寄り、話合いをする。（プロジェクトチームごとの小集団）	18	・　生活基盤の整備を優先する。水や電気を整備することで、人々の生活が改善され、教育や医療など他の課題の改善にもつながる。 ・　教育の充実を優先する。知識や技術を身に付けた人材が育つことで、現地の人々が主体となって様々な課題を解決していくことにつながる。 ・　一つの分野だけを優先するのではなく、第一歩となる取組を中心に、複数の取組を関連付けて進めることが大切だ。	○　五つの視点を基に、資料を根拠として取組を比較・関連付け、ダイヤモンドランキングを用いて優先順位を検討させる。
②　各グループで話し合った内容を発表し、質問や意見交換をする。（一斉）	15		○　各グループのランキングと話合いの過程を発表し、質問や意見交換をさせる。
4　ゲストティーチャーの話を聞く。	5	・　現地の人々の思いや願いを尊重し、日本とアフリカが互いのよさを生かしながら、共に取り組むことが大切だ。	○　生徒の提案を基に、ゲストティーチャーから助言を受けられるようにする。
5　本時の学習の振り返りをする。 （小集団→個人） （振り返りシートの記入と新たな気付きの発表）	8	○　今日の授業の振り返りをしよう。 ・　初めは自分の分野が一番大切だと考えていたが、他の分野の意見や理由を聞いたことで、それぞれの取組の必要性や効果を比べて優先順位を考えることが大切だと気付いた。 ・　初めは一つの取組を進めればよいと考えていたが、話合いで取組同士のつながりについて考えたことで、複数の取組を関連付けて進めることが大切だと気付いた。	◇　アフリカ州で見られる地球的課題について、各分野の取組を比較・関連付けて、現地の人々の願いや取組の効果を踏まえながら、優先する取組とその理由を多面的・多角的に考察し、表現している。 （ワークシート、観察）

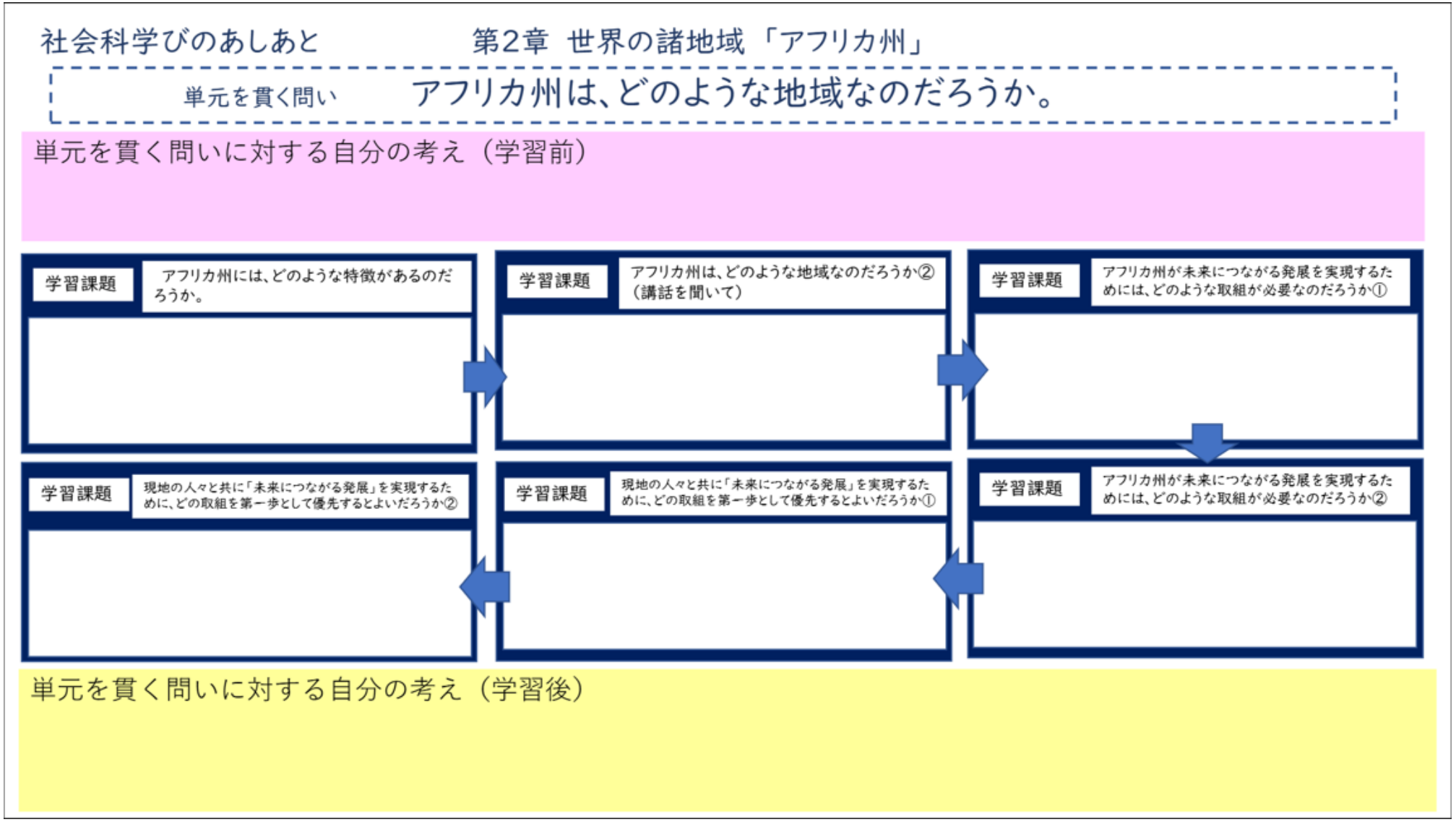
9　研究の視点

○　「私の問い」を持つことは、生徒が見通しを持って主体的に課題を追求するために有効だったか。

○　専門グループからプロジェクトチームへと組み替える話合い活動は、生徒が多様な見方や考え方を取り入れ、自分の見方や考え方を広げたり深めたりするために有効だったか。

○　一枚式振り返りシートの活用は、生徒が自分の見方や考え方の広がりや深まりを自覚し、学びにつなげるために有効だったか。

【一枚式振り返りシート】


社会科学びのあしあと　第2章　世界の諸地域「アフリカ州」
単元を貫く問い　アフリカ州は、どのような地域なのだろうか。
単元を貫く問いに対する自分の考え（学習前）
学習課題
アフリカ州には、どのような特徴があるのだろうか。
学習課題
アフリカ州は、どのような地域なのだろうか②（講話を聞いて）
学習課題
アフリカ州が未来につながる発展を実現するためには、どのような取組が必要なのだろうか①
学習課題
現地の人々と共に「未来につながる発展」を実現するために、どの取組を第一歩として優先するとよいだろうか②
学習課題
現地の人々と共に「未来につながる発展」を実現するために、どの取組を第一歩として優先するとよいだろうか①
学習課題
アフリカ州が未来につながる発展を実現するためには、どのような取組が必要なのだろうか②
単元を貫く問いに対する自分の考え（学習後）

授業分析シート（1年1組 社会科）

東温市立川内中学校

（4…とても有効 3…おおむね有効 2…あまり有効ではない 1…有効ではない）

	研究の視点	評　価	自由記述
1	「私の問い」を持つことは、生徒が見通しを持って主体的に課題を追求するために有効だったか。	4　3　2　1	
2	専門グループからプロジェクトチームへと組み替える話合い活動は、生徒が多様な見方や考え方を取り入れ、自分の見方や考え方を広げたり深めたりするために有効だったか。	4　3　2　1	
3	一枚式振り返りシートの活用は、生徒が自分の見方や考え方の広がりや深まりを自覚し、学びにつなげるために有効だったか。	4　3　2　1	
4	授業の中で、生徒の学びの様子や教師の支援に関して、気付いた点や疑問点、今後の授業改善につながると感じたことを記入してください。		

感想・ご意見等

記入者	所属名（　　）職名（　　） 氏名（　　）

第２学年　総合的な学習の時間学習指導案

指導者　中島　義人　　（被服室）
渡部　真平　（２年２組）
新井　宇丞　（２年１組）
水田　奈美（第１理科室）

１　日　　時　令和８年11月５日（木）　第２校時　９：45～10：35

２　場　　所　被服室、２年１組・２組教室、第１理科室

３　単 元 名　私たちはどう働くか　ー働く人と出会い、自分の未来につなぐジョブチャレー

４　単元の目標

○　東温市におけるジョブチャレンジを中心とした学習活動を通して、地域の様々な職場や働く人の姿について理解を広げるとともに、仲間との対話や職場での体験から、仕事や働くことに対する多様な考え方や価値観について認識を深め、働くことに関する「私の問い」への考えを深めたり見つめ直したりしながら、将来の職業や自己の生き方への意識を高める。

○　地域の方々との交流活動や探究的な学習を通してコミュニケーション能力を高め、自らの問いを基に、仲間と協働しながら粘り強く課題を追究していこうとする態度を養う。

５　指導に当たって

⑴　これまでの学習状況及び生徒について

生徒は、１年次の総合的な学習の時間において、「働く人に学ぶ会」で、様々な職業に携わる講師の講話や体験活動を通して、働くことの意義や社会の仕組み、人と人とのつながりについて学んだ。また、当時の２年生（現３年生）との合同学習では、先輩からジョブチャレンジ（以下ジョブチャレとする）を通して得た学びや助言を聞き、職場体験について具体的なイメージを持った。これらの学習を通して、職業への関心を高めるとともに、自分の将来や生き方について考えるきっかけを得ている。

事前アンケートでは、「ジョブチャレを通して、自分の将来や生き方について考えたい」と答えた生徒が94.7%、「ジョブチャレは、自分自身の成長につながる学習だと思う」と答えた生徒が97.4%であった。このことから、ジョブチャレへの関心が高く、体験を自分の将来や成長につなげようとする意欲を持っていることが分かる。

一方、「ジョブチャレで確かめたい問い」の自由記述では、「仕事のやりがい」「その職業を選んだ理由」「仕事の大変さ」「働く上で大切にしていること」などが挙げられた。しかし、「やりがいは何か」「なぜその仕事を選んだのか」など、働く人について知るための質問にとどまっているものが多く、問いを持った理由や自分なりの考えまで深めている記述は少なかった。また、事前の段階では、働く人から学んだことを基に、自分は何を大切にして、どのように働きたいかという具体的なイメージを持つまでには至っていなかった。自分の関心や疑問を「私の問い」として追究し、働く人や仲間との対話を通して考えを深めながら、自分の将来や生き方と関連付けて考えることに課題がある。

⑵　単元について

本単元では、東温市のジョブチャレを通して、働く人の仕事への向き合い方に学び、自己の生き方について考える。単元を貫く学習課題「私たちは、将来どのように働いていきたいのだろうか。」のもと、三つの小単元で構成する。

小単元１「『働くって何だろう？』を考える」では、働くことに対する自分の考えを明らかにし、適性検査や働く人との出会いを通して、その見方を広げる。そこで生まれた疑問や関心を基に、職場体験で

追究する「私の問い」を設定する。

小単元２「『働く』を体験し、自分の問いを探る」では、３日間の職場体験を通して、働く人の姿や働く人との対話から「私の問い」に対する手掛かりを集める。体験中の日々の振り返りを翌日の質問や行動につなげ、体験後には、異なる事業所で学んだ仲間との交流や地域の方とのアフタートークを通して、自分の考えを広げる。

小単元３「『私たちはどう働くか』を考え、未来につなぐ」では、体験や対話で得た手掛かりを基に、「私の問い」に対する自分なりの答えを整理する。全ての生徒が様々な問いを持つ仲間と発表・対話を行い、互いの考えを比較・関連付けながら自分の考えを深める。さらに、生徒が立てた多様な問いや考えを代表生徒が全校合同のシンポジウムで発表し、他学年と共に考える。最後に、生徒一人一人が単元を貫く学習課題に立ち返って学習を振り返り、働くことへの考えの変化や今後大切にしたいことへの思いを持つ。

働く人や仲間との対話、職場での体験を通して多様な仕事への向き合い方や価値観に触れることは、働くことを自分自身に関わる問題として捉え、将来や生き方について考えることにつながる。「問い・対話・省察」を学習の過程に位置付け、働くということについて、自分の問い自体を何度も問い続け、自己の生き方に照らしながら主体的に探究を進める単元としたい。

⑶　指導について

東温市のジョブチャレが重視する仕事への向き合い方を、生徒が自分自身の生き方と結び付けて考えられるよう、本校の研究の視点である「問い・対話・省察」を相互に関連付けて指導する。また、単元の企画段階から地域の方と連携し、学校の中と外に学びの場を広げる。

「問い」については、単元の導入で働くことに対する生徒一人一人の考えを明らかにし、「働く人と出会う会」などで生まれた疑問や関心を、職場体験で追究する「私の問い」へとつなげる。その際、「なぜそのことを知りたいのか」「今はどう考えているのか」と問い返し、問いを自分自身に関わるものとして捉えられるようにする。体験中や体験後も、新たな気付きや得た手掛かりを基に、問いや考えを見直せるよう支援する。

「対話」については、一問一答で終わることなく、その背景にある経験や思いを重ねて尋ねられるよう、質問の仕方を考えさせる。また、ジョブチャレ後の「アフタートーク」や仲間との交流では、事業所での異なる経験を比べ合い、「自分の問いについて何が言えるか」という視点で話し合わせる。小単元３の発表・対話でも、互いの考えに問い返したり、共通点や相違点を関連付けたりすることで、一人一人の考えを深められるようにする。

「省察」については、各小単元に振り返りの場を位置付け、働く人との出会いや職場体験、仲間との対話を通して、「私の問い」や考えがどのように変化し、深まったかを確かめ、次の学習につなげる。体験中は、「何をしたか」を記録するだけでなく、「問いに対して何が分かったか」「次に何を確かめたいか」を考え、翌日の質問や行動につなげる。体験後の発表・対話では、得られた気付きを基に自分の考えを見直し、発表スライドの修正や再発表に生かす。単元の終末には、全校合同のシンポジウムで得た気付きも踏まえて導入時と現在の考えを比較し、単元を貫く学習課題「私たちは、将来どのように働いていきたいのだろうか。」に立ち返り、今後の生活や学習、自己の生き方につなげて考えられるようにする。

地域の方には、単元の企画段階から「働く人と語る会」、ジョブチャレ、「アフタートーク」まで継続して関わっていただいており、発表会にも参加していただく。こうした関わりを「地域丸ごとの学びの場」と捉え、生徒が働く人の姿や言葉に繰り返し触れ、自分の問いを確かめたり考えを見直したりする機会として生かす。地域の方を学びを共につくる存在として位置付けることで、生徒が働くことを自分事として捉え、自己の生き方を考えることにつなげたい。

６　単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①　働くことには、生活を支えることに加え、人との関わりや社会への貢献、自己の成長など、多様な意味があることを理解している。 ②　「私の問い」に関わる情報を、働く人への質問や仕事の観察を通して収集し、記録している。	①　働くことへの自分の考えや、働く人との出会いから生まれた疑問を基に「私の問い」を設定し、追究する見通しを持っている。 ②　働く人や仲間から得た情報と自分の体験を比較・関連付け、「私の問い」に対する考えを深めたり、見直したりしている。 ③　「私の問い」に対する自分なりの考えを、体験や対話で得たことを根拠に、相手や目的に応じてまとめ、表現している。	①　「私の問い」の追究に粘り強く取り組み、自分の活動を振り返りながら、次の活動に生かそうとしている。 ②　働く人や仲間の考えを受け止め、対話を通して共に考えを深めながら、学んだことを今後の生活や自己の生き方に生かそうとしている。

７　指導と評価の計画（全 44 時間）

小単元（時数）	学習活動	知	思	態	評価方法
	【単元を貫く学習課題】 私たちは、将来どのように働いていきたいのだろうか。				
《小単元１》 「働くって何だろう？」を考える （10 時間）	○　ジョブチャレの目的と学習の見通しを知り、「働くこと」について考える。 ○　職業適性検査を通して、自分の特徴や働く上で大切にしたいことを考える。 ○　「働く人と出会う会」に向けて質問を考える。 ○　コミュニケーション力講座を受け、話の聴き方や質問の仕方を学ぶ。 ○　「働く人と出会う会」で地域の働く人の話を聞き、質問・記録する。 ○　働く人や仲間との対話を振り返り、「私の問い」を設定する。 ○　東温市内の事業所について調べる。 ○　体験先の事業所について調べる。 ○　自己紹介シートを作成し、体験で学びたいことや質問を整理する。	② ①	①		ワークシート ワークシート 自己紹介シート

《小単元２》 「働く」を体験し、自分の問いを探る （24 時間）	○　事業所で職場体験を行い、働く人への質問や観察を通して「私の問い」の手掛かりを集める。 ○　毎日の活動を振り返り、翌日に確かめたいことを考える。 ○　体験の記録を振り返り、「私の問い」への現時点での考えをまとめる。 ○　事業所ごとに体験を整理して共有し、他の事業所での学びや地域の方とのアフタートークを通して、考えを広げる。 ○　お礼状と体験報告新聞を作成する。	②	②	①	しおりの記録 発表 ワークシート
《小単元３》 「私たちはどう働くか」を考え、未来につなぐ （10 時間） （本　時）	○　職場体験や対話の記録を基に、「私の問い」に対する考えとその根拠を整理し、発表スライドにまとめる。 ○　問いの近い仲間との対話で得た気付きを発表スライドに加え、考えを広げる。 ○　異なる問いを持つ仲間と発表・対話し、新たな気付きを得る。 ○　元の教室に戻り、異なる問いを持つ仲間との対話で得た気付きを持ち寄る。それらを自分の体験と関連付けながら、「私の問い」に対する考えや発表スライドを見直し、考えを深める。 ○　全校合同の活動で学年の考えを共有し、他学年との対話を通して「私たちはどう働くか」について考え、今後の生活や生き方につなげる。		③ ② 	② 	発表資料 発表の様子 発表資料 対話の様子 デジタルポートフォリオ デジタルポートフォリオ

８　本時の指導（41／44 時間）

⑴　目標

異なる問いを持つ仲間や地域の方との対話で得た気付きを、自分の体験と比較・関連付けながら、「私の問い」に対する考えを深めたり見直したりする。

⑵　本時の指導に当たって

本時は、異なる問いを持つ仲間との対話で得た気付きを元の教室に持ち帰り、「私の問い」に対する考えをさらに深める時間である。まず、一枚式デジタルポートフォリオを基に、前時の対話によって考えが変わったことや確かになったこと、迷いが生まれたことなどを伝え合う。次に、それらを基に発表スライドを修正し、「私の問い」「現在の考え」「そう考えた理由」を小集団で再発表する。一人一人の発表後に、聞き手が考えの理由や体験とのつながりについて問い返すことで、自分の考えを捉え直せるようにする。再発表後は、話し合ってよかったことや、さらに考えたいことをグループで出し合い、ホワイトボードに整理して全体で共有する。地域の方には、生徒から出された意見に関わる仕事上の経験や考えを話していただき、生徒からも質問や考えを返すことで、自分の考えをさらに見直せるようにする。終末には、仲間や地域の方との対話を通して「私の問い」への考えに加わったことや、さらに考えたいことを一枚式デジタルポートフォリオに記録する。

⑶　展開

学習活動（形態）	時間	○主な発問　・予想される生徒の反応	○指導上の留意点 ◇評価（評価方法）
1　前時までの活動を振り返り、学習課題を確認する。 （一斉）	3	○　異なる問いを持つ仲間との対話を通して、自分の考えにどのような変化や広がりがあっただろう。	○　個人でデジタルポートフォリオと自分のスライドを見比べ、考えが広がった点や迷いが生まれた点を確かめさせる。
対話による「私の問い」への考えの変化や深まりを伝え合い、さらに考えを深めよう。			
2　前時の対話による考えの変化を共有し、地域の方から、さらに考えてほしい視点について問いかけを受ける。 （小集団　→　一斉）	5	○　自分の考えは、どのような体験や仲間の意見をきっかけに変わったり、確かになったりしただろう。 ・　「やりがい」と「責任」は別のものだと思っていたが、両方がつながる場面もあると思った。	○　体験や仲間の意見を根拠に、考えが変化した理由を説明させる。 ○　考えを変えなかった生徒についても、根拠が増えたことや迷いが明確になったことに着目させ、対話による考えの深まりを捉えられるようにする。
3　スライドを修正する。　（個人）	5	○　前時の対話で得た気付きを、どのようにスライドに反映させるとよいだろう。 ・　事業所は違っても人との関わりを大切にしていたので、働く上で大切なこととして、人との関わりを付け加えようと思う。	
4　修正したスライドで、「私の問い」への現在の考えを発表し、互いに問い返し合う。　（小集団）	15	○　修正したスライドで、「私の問い」「現在の考え」「そう考えた理由」を伝えよう。 ○　聞き手は、考えの理由や体験とのつながり、異なる見方について問い返そう。 ・　以前と、どこが変わったのですか。	○　考えの根拠や変化に着目して問い返すよう促す。
5　伝え合ってよかったことや、さらに考えたいことをグループで出し合い、ホワイトボードにまとめて全体で共有する。 （小集団 → 一斉）	7	○　仲間との対話を通して、よかったことや、さらに考えたいことは何だろう。 ・　人との関わりを大切にする点は、自分と同じように考える人がいて安心した。 ・　やりがいと責任は、どのようにつながっているのか考えたい。	
6　地域の方の話を聞き、問い返す。 （一斉）	10	○　生徒たちの意見について、実際に働く中でどのように感じられますか。	○　生徒から出た論点について地域の方に経験を話していただき、生徒との対話につなげる。
7　本時を振り返る。 （個人）	5	○　本時の学びを振り返り、仲間や地域の方との対話を通して考えたことをデジタルポートフォリオに記録しよう。	◇　働く人や仲間から得た情報と自分の体験を比較・関連付け、「私の問い」に対する考えを深めたり見直したりしている。 思②（発表スライドの変更点と理由、対話の様子、デジタルポートフォリオ）

9　研究の視点

○　「私の問い」を持って学習に取り組むことは、仲間や地域の方の考えを自分の体験と結び付け、働くことを自分事として考え続ける上で有効だったか。

○　異なる問いを持つ仲間との対話で得た気付きを基に、仲間や地域の方と伝え合ったり問い返し合ったりすることは、「私の問い」に対する考えを深めたり見直したりする上で有効だったか。

【発表スライド】

私たちはどう働くか―働く人と出会い、自分の未来につなぐジョブチャレ―

私の問い：



その問いを持った理由

「私の問い」に対する今の考え（学習前）

私たちはどう働くか―働く人と出会い、自分の未来につなぐジョブチャレ―

私の問い：

そう考えた根拠　※写真やイラストなどを加えても良い
（働く人と語る会で聞いたこと・職場体験で見たこと・感じたこと・聞いたこと・ 仲間との対話で気付いたこと など）

私たちはどう働くか―働く人と出会い、自分の未来につなぐジョブチャレ―

私の問い：

対話を通して得た気づき
（加わった考え・確かになったこと・迷い・さらに考えたいこと など）

私たちはどう働くか―働く人と出会い、自分の未来につなぐジョブチャレ―

私の問い：



「私の問い」に対する今の考え（学習後）　※答えを支える特に大切な根拠をもとにまとめる

ジョブチャレを通して、あなたは、何を大切にして将来働いていきたいと考えましたか。

【一枚式振り返りシート（デジタルポートフォリオ）】

私たちはどう働くか―働く人と出会い、自分の未来につなぐジョブチャレ―



私の問い：

第1時・2時 「私の問い」に対する考えと、なぜそう考えたのかをまとめよう。	第3時・4時 問いの近い仲間と考えを伝え合い、「私の問い」への考えを深めよう。	第5時・6時 異なる問いをもつ仲間との対話から、新しい考えや気付きを得よう。
今日の学習を振り返って	今日の学習を振り返って	今日の学習を振り返って
さらに考えたいこと	さらに考えたいこと	さらに考えたいこと

私たちはどう働くか―働く人と出会い、自分の未来につなぐジョブチャレ―



私の問い：

第7時　対話による「私の問い」への考えの変化や深まりを伝え合い、さらに考えを深めよう。	第8時 全校シンポジウムで、他学年と共に考えたい問いは何だろう。	第9時・10時　他学年との対話を通して、「私たちはどう働くか」について考え、「私の問い」への答えをどのように深められるだろう。
今日の学習を振り返って	今日の学習を振り返って	今日の学習を振り返って
さらに考えたいこと	さらに考えたいこと	さらに考えたいこと

授業分析シート（2年 総合的な学習の時間）

東温市立川内中学校

（4…とても有効 3…おおむね有効 2…あまり有効ではない 1…有効ではない）

	研究の視点	評　価	自由記述
1	「私の問い」を持って学習に取り組むことは、仲間や地域の方の考えを自分の体験と結び付け、働くことを自分事として考え続ける上で有効だったか。	4　3　2　1	
2	異なる問いを持つ仲間との対話で得た気付きを基に、仲間や地域の方と伝え合ったり問い返し合ったりすることは、「私の問い」に対する考えを深めたり見直したりする上で有効だったか。	4　3　2　1	
3	授業の中で、生徒の学びの様子や教師の支援に関して、気付いた点や疑問点、今後の授業改善につながると感じたことを記入してください。		

感想・ご意見等

記入者	所属名（　　）職名（　　） 氏名（　　）

第３学年２組　道徳科学習指導案

指導者　Ｔ１　廣田　明日香
Ｔ２　宮本　恵理子

１　日　　時　令和８年 11 月５日（木）　第２校時　９：45～10：35

２　場　　所　３年２組教室

３　主 題 名　人間どうしが支え合って生きる社会をつくっていく上で大切なこととは

Ｃ－(12)社会参画、公共の精神

４　教 材 名　「加山さんの願い」　新しい道徳３　（東京書籍）

５　ね ら い

主人公がボランティア活動を通して考えた、人間どうしが支え合って生きていく上で大切なことや、そうした社会の実現に向けた願いなどについて語り合い、主体的に社会に関わり、社会連帯の自覚を高め、公共の精神を持って誰もが自然に支え合うことができる社会を築いていこうとする道徳的実践意欲と態度を育てる。

６　主題設定の理由

⑴　ねらいとする価値

人がよりよく生きるためには、社会の諸問題を人任せにするのではなく、主体的に関わり、他者と協力して誰もが自然に支え合い助け合える社会を自らつくっていこうとすることが大切である。地縁によるコミュニティが希薄さを増す中、困っている人を助けたりボランティア活動に参加したりすることで、社会へ積極的に関わろうとする意識を持っている若者もいる一方、限られた人間関係の他は、周囲との関わりに消極的な姿も見られ、社会参画に対する意識は多様である。そうであるからこそ、今一度人間どうしが支え合って生きることの意味や大切さ、その中で留意すべき、相手に対する敬意や対等性、相互性を見つめ直す意義は大きい。その上で、自らも社会の一員としての自覚を持ってどのように社会に参画し、どのように連帯すべきかについて考えを深め、行動に向かう態度を育みたい。

⑵　生徒の実態について

本学級の生徒は明るく穏やかで、リーダーを経験してきた生徒も多く、誰かのために行動したいという姿がよく見られる。また、本校では生徒会活動の一環で毎月ボランティア週間を設け、アルミ缶やペットボトルキャップの回収運動、朝の挨拶運動を行っており、それらのボランティア活動に参加している生徒も多い。一方で、「あの人に言っても変わらないからいい」「自分がする必要はない」という発言をすることもあり、他者との関わりに対して消極的な面があると感じている。また、学校以外の場で地域社会と関わる機会は限られており、自己と社会とのつながりについてリアルに向き合うことは少ない。本教材を通し、生徒一人一人が社会参画の意識や社会連帯の自覚を高め、公共の精神を持って自然に支え合うことができる社会の実現に努めようとする態度を育てたい。

⑶　教材について

本教材の主人公である加山さんは、隣人の孤独死をきっかけに一人暮らしのお年寄りを訪ねる「訪問ボランティア」を始める。当初は「老人の話し相手になるぐらい簡単なことだ。」と考えていたが、実際にやってみるとなかなか思うようにいかない。それでも義務感から訪問を続けていたある寒い雨の日、訪問先の中井さんとの会話をきっかけに自分自身を省みることで、自身の態度は相手への一方的な同情心による自分本位なものであったことに気付く。加山さんのボランティア活動に対する心情の変化や訪問先の中井さんや田中さんの態度などを通して、支援する側もされる側も対等な立場で、人間的な触れ合いを大切にして関わることの大切さや、世話をしてあげるという押し付け的な奉仕ではなく、共存・共生の考え方の大切さ、自分もよりよい社会を築いていく上で、社会の一員であるという自覚や認識を深めていくことができる教材である。

⑷　指導に当たって

生徒が道徳的な課題を自分事として捉え、多面的・多角的に考えたり、深めたりすることができるよう、本校の研究の視点である「問い・対話・省察」を関連付けて指導する。

「問い」については、授業の前に教材を読み、本時の主題を追求するために学級で話し合いたいことを「私の問い」として考えさせることで、課題を自分事として捉えられるようにする。授業では、それらの問いについて対話していく。対話をする際にも、相手の意見に対して「それはどういうことなのか」「自分だったらどうだろうか」と問いを抱き続けられるようにする。本時では、最初に「私の問い」を小集団で紹介し合い、全体で話し合いたいと思う問いを決定していく。

「対話」については、自由に発言してよいと思える雰囲気作りに努め、それぞれの生徒から様々な視点の意見が出せるよう支援する。生徒の問いや発言からさらに問いを重ねていくことを意識し、常に考え続けたり、互いに問い返したりしながら課題について自分自身と向き合い、自律的に深められるようにする。

「省察」については、授業内で使用するワークシートと合わせて、一枚式振り返りシートを使用している。授業前の感想や「私の問い」と授業後の感想を短文で書き留め、自分の考えが授業前から授業後にどのように変わったかを生徒自身で見取る。蓄積された記録を改めて見直し、道徳的な課題について考え続け、よりよい自己の生き方や他者との関わり方への実践に向かう力を育てていきたい。

7　教材分析

加山さんの変容と自覚

	〈教材前段〉	〈教材終末〉
〈願い〉	佐藤さんのような孤独死をなくしたい。 私にできることはあるだろうか。	誰もが、自然に人間として出会い、支え合い、ともに生きていく地域社会にしたい。 自分も社会の一員としての役割を果たそう。
〈言動〉	・これなら私にもできそうだ。自分の思いにふさわしい。 ・老人の話し相手になるぐらい簡単なことだ。	・「ちょっと行ってくるよ」 ・「また来よう」（義務感でなく、素直に思った。） ・肩の力みが抜けて何をするにも楽になった。 ・どうしてあれほどつらそうにするのだろう。
〈心〉	・せっかく訪ねてやっているのにあの態度はなんなんだ。 ・行かなくてはという義務感から訪問を続けた。（対中井さん） ・よいことをしているんだなあ。 ・ボランティアをはじめてよかった。（対田中さん）	・満たされた気持ち、何の身構えもなく中井さんと話せた。友達を訪ねた思い。疲労感はない。 ・世話をしてあげると自分だけいい気分になっていたのではないか。つらい思いをさせていたのは自分ではないか。 ・互いが人間として理解し合うためには、繰り返し自分の誠意を態度で伝えるなど、時間も必要だ。 ・人間として出会い、支え合い、ともに生きていく社会を小さな一歩からでもつくっていきたい。
〈価値〉		**敬意、謙虚さ、立場の尊重、 対等性、相互性、自分も社会の一員**

８　本時の学習

学習活動（形態）	時間	○主な発問　・予想される生徒の反応	○指導上の留意点 ◇評価（評価方法）
1　範読　（一斉）	12	本時のテーマと事前に立てた「私の問い」を確認し、教材を読む。 人間どうしが支え合って生きる社会をつくっていく上で大切なことは、何だろう。	○　教材を読んだ後に「私の問い」についてグループで話し合うことを伝える。
2　「私の問い」をグループで共有し、対話する。（小集団）	7	○　「私の問い」をグループで伝え合いましょう。 ・　なぜ加山さんは中井さんの訪問を続けたのか。 ・　他人から「何かしてもらう」のは嫌なことだろうか。 ・　加山さんの「肩の力み」とは何だろう。なぜ加山さんは楽になったのか。	○　「私の問い」について生徒同士で対話させ、考えを深めさせていく。
3　全体で話し合いたい問いを選び、発表する。（小集団→全体）	5	○　全体で話し合いたい問いを選びましょう。 ・　どうして加山さんは肩の力みが抜けたのだろう。 ・　加山さんのボランティアが思い通りにいかなかったのはどうしてだろう。 【着目させたい言動や場面】 ○　義務感でなく、素直に思った。 ○　肩の力みが抜けて、何をするにも楽になった。 ○　自分だけいい気分になっていたのではないか。	○　意見の共有で終わらず、反応や問い返しを行い、対話を続けるよう意識させる。 ○　生徒の発言や反応を積極的に拾い、全体で考えていく。 ○　本時のテーマから逸れないように留意する。
4　選んだ問いについて全員で考える。（問い返しで深める。）（全体）	20	◎　「選んだ問い」について考えましょう。（中心になる問い） 【問い返し】 ○　なぜ「義務」ではいけないのか。 ・　互いに窮屈な思いをし、長続きしないから。 ・　周りの人々にも「義務」としての協力を求めると、強制となり関係がぎくしゃくするから。 ・　「義務」からではなく、人間どうしの関係の中で交流し、支え合いたい。 ○　「義務感」でないとすれば、加山さんを動かしているものは何だろう。 ・　みんなが自然に支え合って生きる地域をつくりたい。 ・　自分が困っていたら気軽に助け合い、誰もが安心して声を掛け合う社会に住みたい。	◇　互いに助け合い励まし合って自然に誰もが支え合う社会を築くことについて、考えを深められたか。（ワークシート）
5　振り返りの感想を書く。（個人）	6	○　人間どうしが支え合って生きる社会をつくっていく上で大切なことは、何だろう。	

９　研究の視点

○　生徒が「私の問い」を立てることは、一人一人が課題を自分事として捉え、主体的に課題に向き合う上で有効だったか。

○　生徒の問いに問いを重ねて話合いを展開していくことは、答えが一つではない道徳の課題について生徒が多面的・多角的に考えたり、深めたりすることに有効だったか。

○　生徒は、対話や道徳的な課題の追求に生き生きと楽しく取り組んでいたか。

【ワークシート】

30　加山さんの願い（教科書 p.144～148）

学習日　　月　　日

3年　　組　　番　名前

テーマ「人間どうしが支え合って生きる社会をつくっていく上で大切なこととは」について、みんなで追求していきます。そのために、この話の中で、みんなで考えてみたい、話し合ってみたいと思うことは何ですか（文章中の場所やセリフなどでもよい）。考えたい問いを一つ書いてください。

【私が考えた問い】

授業の感想

自分の意見が言えた。	当てはまる	4	3	2	1	当てはまらない
友達といい対話ができた。		4	3	2	1	
新しい気づきがあった。		4	3	2	1	
授業を楽しめた。充実していた。		4	3	2	1	

【一枚式振り返りシート】

◎道徳

3年2組　　番　氏名（　　）

	日付	タイトル	テーマ	最初の感想	印	授業後の感想
1						
2						
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9						

授業分析シート（3年2組 道徳科）

東温市立川内中学校

（4…とても有効 3…おおむね有効 2…あまり有効ではない 1…有効ではない）

	研究の視点	評　価	自由記述
1	生徒が自ら問いを立てることは、一人一人が道徳的な課題を自分自身の問題として捉え、向き合う上で有効だったか。	4　3　2　1	
2	生徒の問いに問いを重ねて話合いを展開していくことは、答えが一つではない道徳的な課題について生徒が多面的・多角的に考えたり、深めたりすることに有効だったか。	4　3　2　1	
3	生徒が、対話や道徳的な課題の追求に生き生きと楽しく取り組んでいた姿について、具体的に記入してください。		
4	授業の中で、生徒の学びの様子や教師の支援に関して、気付いた点や疑問点、今後の授業改善につながると感じたことを記入してください。		

感想・ご意見等

記入者	所属名（　　）職名（　　） 氏名（　　）